

「子どもにやさしいまち」を考えよう！

札幌市では「札幌市子どもの最善の利益の実現するための権利条例(子どもの権利条例)」に基づき、様々な場面で子どもが意見を言う「子どもの参加」の機会をつくり、まちづくりに子どもの視点を生かす取組を進めています。

令和7年度からスタートする新しい子ども計画「さっぽろ子ども未来プラン」の策定にあたり、**子どもにやさしいまち**はどのようなまちか、そのためにはどうしていくべきか、様々な機会を活用し子どもたちに考えてもらいました。



子どもからの提案・意見募集ハガキは、子どもたちから市政やまちづくりについて提案や意見を広く返信ハガキにより募集する取組です。

市内の小学4年生～高校生を対象に、「子どもにやさしいまち」をテーマに意見を募集したところ、260通の意見が集まりました。

- 子どもにとって大切な権利
- 安心して生きる
 - 自分らしく生きる
 - 豊かに育つ
 - 参加する

子どもの提案・意見募集ハガキ



1 子どもにやさしいまちってどんなまち？

まず、子どもが考える「子どもにやさしいまち」とはどんなまちかを考えてもらいました。

意見で一番多かったのは、「子どもが豊かに学べる環境が整っているまち」「次いで「緑が豊かで公園などの子どもの遊び場が整っているまち」で、「チャレンジできる、夢や希望を持てるまち」も上位にあり、学び・遊び・体験といった、豊かに育つために欠かせない経験に関わることを特に多くありました。

このほか、地域のつながりが欠けないという意見や、子どもの気持ちや意見に耳を傾け尊重することが大切という意見もありました。また、気軽に相談できる、いじめや差別などの権利侵害がないまちを望む声もありました。

みんなの意見の一部を紹介！

- 子どもの意見一つ一つを逃さないでしっかり聞いてくれるやさしいまち
- 子どもたちが楽しめる、思いっきり遊べる場所があるまち
- 自己表現できることが子どもの成長につながるので、個性や意見を表現できる環境が「子どもにやさしいまち」だと思う
- いじめや人の嫌がることが全然なく、だれもが安全に安心して暮らせるまち
- 子どもたちが取り残されることなく、のびのびと生活し、成長していくことができ、可能性を大切にしていけるまち
- 子どもにやさしいまちは、子ども自身がその地域に住んでいることに誇りを持てるまちだと思う
- よく学び、よく動き、よく食べ、健やかに成長できる場を設けることができるまち
- 多くの人や自然と関わることができるまち
- 公共の場が安全に整備されていて、事故などが起きない一人一人が安心して暮らせるまち

2 子どもにやさしいまちに「もっと」必要なのは？

次に、子どもにやさしいまちに「もっと」必要なのはどのようなことが必要かを聞きました。

特に多かったのは、公園や学校の環境整備で、子どもたちの日常に関する施設を充実させるといった意見です。次いで、多様な学び・体験ができる環境を整えるといった意見で、職業体験やボランティア活動など体験機会を増やし、将来の視野を広げることが子どもにやさしいまちにつながるという意見がありました。

また、地域のつながりの機会を望む声も多く、安心・安全のためにも地域活動を増やした方がよいという意見も多かったです。このほか、みんなが思いやりをもつこと、大人が子どもに寄りそって、子どもの意見を否定せず耳を傾けるなど、互いを思いやる心が大切という意見も多くありました。

みなさんの提案はどれも重要な視点であり、今後の取組を進めていくにあたっては、みなさんの意見を参考により良い取組となるよう進めていきます。

子ども議会

子ども議会は、子ども議員となった子どもたちが主体的に札幌市のまちづくりについて話し合い、発表する活動を通して、市政への子どもの参加及び意見表明の機会として、平成13年度から毎年実施している取組です。



令和6年度は、小中学生の子ども議員27人が参加。「子どもにやさしいまち」を題材に、子ども議員自らが設定した5つのテーマについて、計5回の委員会活動で課題や意見を話し合いました。話し合いでは、関連する部局の市職員との勉強会を通して学び、高校生・大学生のユースファシリテーターのサポートを受けながら意見をまとめ、まとめた意見は、市長に直接報告しました。

◆意見の一部を紹介◆

- みんなが思いやりを持って行動することで笑顔になる人が多くなると思う。
- 一人一人が個性を否定することなく、その人のいいところを認めることや、そのための環境づくりが大切だと思う。
- 子どもの意見を聞くだけではなく、その意見についてしっかりと理解してあげる心が必要だと思う。
- 子どもの声を聞く場を学校内で設けたり、気軽に相談できたりする環境づくりが必要だと思う。
- 子育て世帯へのサポートを充実させる。
- 地域のイベントやボランティア活動を通じて、子どもたちに社会の一員としての意識を育むことができるので、地域ぐるみで子どもたちを育てる環境を作ることが長期的な視野でのまちづくりに貢献すると思う。
- 子ども食堂など家や学校以外のコミュニティは必要だと感じているので、もっと広げていくことが大切だと考える。
- 子どもの権利を尊重する意識を社会全体で高めることが必要であり、大人だけでなく子ども自身も権利を知り、認識を持つことが大事。
- みんながお互いを認め合えるまちにするには、市が子どもを守る姿勢を見せることが一番だと思う。

札幌市の考え方(札幌市子ども未来局)

みなさん、たくさんの意見をありがとうございました。

札幌市では、令和7年度からスタートする新しい子ども計画を考えるにあたり、主役である「子ども」の意見を聞き、子どもたちの考えも取り入れた「子どもにやさしいまち」を目指していくため、子どもが参加する様々な機会を活用し、広く意見を伺いました。

どの意見からも、子どもたちがいろいろなことを調べ、深く考え、現状を踏まえ意見を述べてくれたことが伝わりました。みなさんの意見から、もともとが暮らしやすい札幌市になってほしいという願いが感じられ、札幌市のまちづくりを真剣に考えてくれる子どもたちをうれしく思うとともに、今後の取組を進めるにあたっては、まちづくりに一員である子どもたちの意見をしっかりと取り入れていかなければならないと感じています。

子どもたちが考える「子どもにやさしいまち」では、まず安心・安全に暮らせる環境を望む意見が多くありました。さらに、地域など人と人とのつながりを重要と感じている意見も多くあり、地域との交流の場を作る、気軽に参加できる地域のイベントを開催するといったアイデアもいただきました。

子どもが心身ともに安心・安全に暮らせる環境は特に重要で、子どもがより一層安心して暮らせるように、子どもが気軽に相談できる環境を充実させることも、地域ぐるみの活動を進め、地域全体で子どもを見守り育てるまちを目指して取り組んでいきたいと思っています。

また、子どもらしく遊んだり学んだりできる環境を整えてほしい、だれもが様々な経験や体験ができるようにしてほしいといった意見も多くいただきました。子どもが様々な人と関わり、いろいろな経験を積み、こ

テーマ	わたしが考える「子どもにやさしいまち」
	概要
体験事業	平等で気軽に誰でも札幌らしい体験ができるまち ・もっとたくさんの子どもたちにイベントを知ってもらうために、札幌市の子ども向けのイベントを検索できるサイトをつくらう
小学校教育	子どもの意見を尊重し、子どもが自立できるまち ・指定された学習方法で嫌々学ぶのではなく、子ども自ら考えられる環境にしてほしいため、小学校の授業でタブレットを利用するとき、子どもが主体的に判断できるようにしよう
防災防犯	SNSのデマ情報が少なく、安心安全なまち ・防災アプリ『そなえ』には多くの機能があり、多くの人に知ってほしいため、広報さっぽろを利用して、『そなえ』の認知度を上げよう ・そして、『そなえ』のようなアプリで、デマ情報にも自分で気付けるようにしよう
環境	クマにとっても人にとっても安心安全なまち ・駆除の対象となるヒグマをできるだけへらすため、市街地と森林の中間エリアをもっと整備したり、唐辛子などのヒグマが苦手な匂いがする杭を使い、ヒグマを市街地から遠ざけよう ・ヒグマ対策と併せて、木材の活用を進めることで、地球温暖化等の対策もしよう
ジュニア相談	相談が身近にできるまち ・相談の仕方がわからない、予約方法がわからない、そういった子どもたちのために、相談場所を明確にしよう ・子どもたちの思いを知ってもらうために、学校でアンケートをとろう ・もっと相談相手を身近に感じられる環境にするため、札幌市の相談窓口が学校で出前授業を実施したり、カウンセラーが学校のイベントなどに参加して子どもたちと仲を深めよう